復元製作実施設計

［復元資料名］旧円覚寺（きゅうえんかくじ） 放生橋獅子付親柱及び勾欄羽目（ほうじょうきょうししつきおやばしらおよびこうらんはめいた）［蓮文（はすもん）／毬取獅子文（まりとりししもん）］	
［原資料名］旧円覚寺 放生橋	［指定］国指定重要文化財（建造物）
［年代］ 1498（弘治 11）年	［作者］―
［所蔵］沖縄県（沖縄県文化財課）	［所蔵番号］

［選定理由］

王家の菩提寺である円覚寺に架かっている放生橋の勾欄羽目と親柱で、親柱の紀年銘から現存最古の勾欄羽目・親柱の作例とされる。青石と称される中国産の石材を用いており、中国で造られた可能性が指摘されている。琉球石彫刻を代表する種類であること、後世の勾欄羽目に影響を与えたと考えられること、琉球で主に使われる石材の一つである青石の加工技術を明らかにできると思われることから復元対象とする。

［保存状態］

羽目石は 10 枚全てが完形で残っている。親柱の獅子は８体のうち１体のみ完形で残る。勾欄のうち北東端の笠石が折れている。橋石は人が多く載ると割れる可能性があるといわれる。

［法量］

勾欄羽目：高 42.2c　幅 81.0cm　奥行 16.8cm

親柱：全高 132.9cm　全幅 18.2cm

［素材・材質］

青石と通称されているが、詳細不明。中国産の輝緑岩と思われる。

［技法］	［付属］
浮彫り、一部穴開き※参考文献より引用	なし

［想定される科学調査］

３Ｄ計測

［主たる材料調達先］

中国産の「青石」を想定。首里城復興事業で中国産石材の最新情報が把握されていると思われるため、その情報を参考にする。中国産の青石が入手できなかった場合、国内で入手できる同質（硬さや質感、色味）の石材を用いる。

［年度別工程表］

年度	制作作業内容
2024（令和 6）年	①熟覧調査
	②製作図面作成
	③材料調達
2025（令和 7）年	①試作原型製作
	②材料粗取り加工
	③揮毫の試作
2026（令和 8）年	①熟覧調査
	②本製作
2027（令和 9）年	①本製作

［製作仕様］

図面：正面・左右側面・背面・上下面の図面を作成すること。

試作：３Ｄ模型を作成すること。浮彫の試作を行うこと。監修者または製作者の必要に応じて、道具の試作も行うこと。

石材：中国産の青石（輝緑岩）を想定。中国産の青石が入手できなかった場合、国内で入手できる同質（硬さや質感、色味）の石材を用いる。

造り：親柱、勾欄羽目、笠石をそれぞれ一材で製作すること。紀年銘については、書家による下書きを書丹の技術を用いて写し彫刻すること。

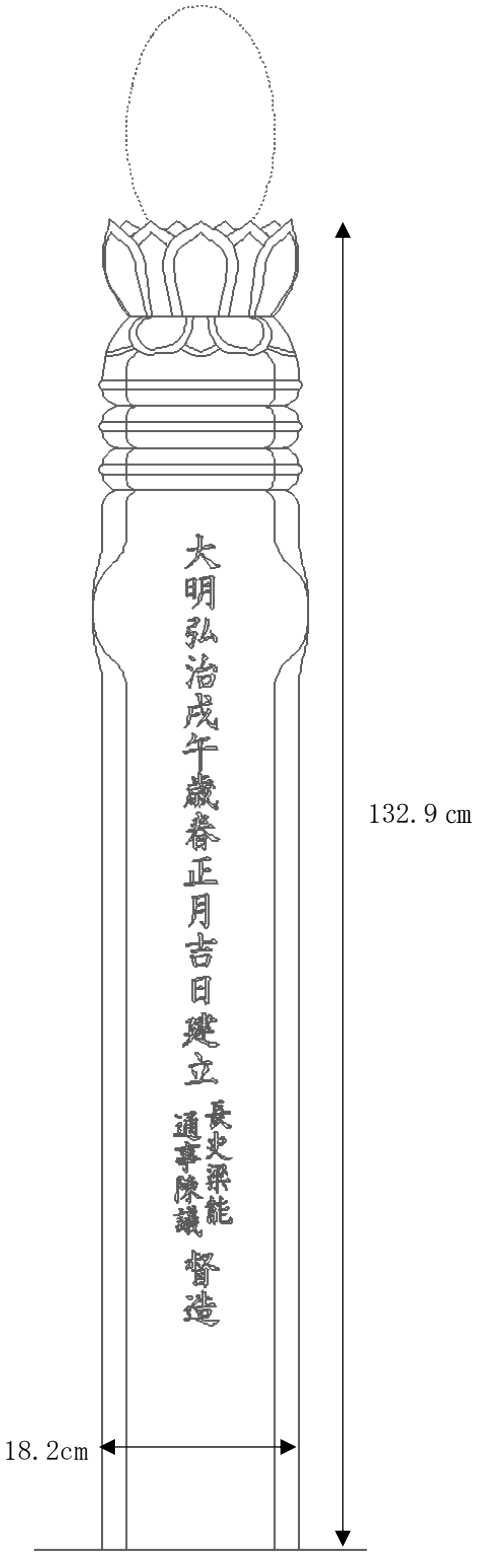
仕上げ：手彫り仕上げとする。仕上げ方は監修者、製作者、事務局で協議の上決定する。

納品：本製作および試作、図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については保管兼展示用の台を製作すること。展示台の形状・材質は製作者・監修者・事務局で協議の上で決定する。

［調　査］

2023 年 11 月 28 日　熟覧調査（R5 第１回ワーキング）

［資料名］設計図

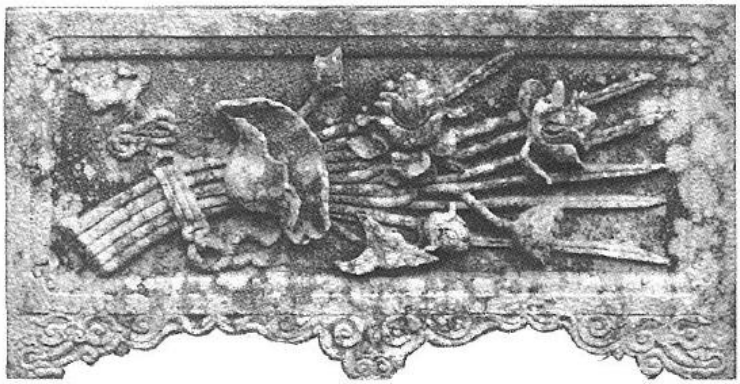


［資料名］旧円覚寺 放生橋

42.2 cm

81.0 cm

42.2 cm



『旧円覚寺美術工芸関係資料調査報告書』（沖縄県教育庁文化課編,（沖縄県文化財調査報告書,第 140 集）（沖縄県史料調査シリーズ第 2 集）沖縄県教育委員会,2000.3）

2023 年 11 月撮影

［復元資料名］玉陵東室入口前石獅子［吽形］	
［資料名］玉陵	［指定］国宝（建造物）
［年代］1501 年か	［作者］―
［所蔵］那覇市（那覇市文化財課）	［所蔵番号］

［選定理由］

第二尚氏の王墓である玉陵の東室前に安置されていた石獅子で、沖縄戦により被災した戦災文化財である。獅子は琉球の石彫刻を代表する種類である。座った獅子の表現や材質は、第１期で復元した２体の石獅子と異なる。琉球の王墓に安置された多様な獅子の表現を解明するとともに、琉球を代表する石材の一つである細粒砂岩（ニービヌフニ）の加工技術についても更なる検討を加えることができることから復元対象とする。

［保存状態］

足元部以外はほとんど欠落している。子獅子についても摩滅が大きい。

［法量］

全高 38.3 ㎝（うち土台 16.0㎝）　全幅 67.0㎝　奥行 105.0㎝

親獅子嵌め込み奥行 59.0㎝　親獅子胴体（破損面）幅 15.0㎝

［素材・材質］

細粒砂岩（ニービヌフニ）

［技法］	［付属］
丸彫り。土台に親獅子を嵌め込み。子獅子は土台と一体の一石造。	なし

［想定される科学調査］

３Ｄ計測

［主たる材料調達先］

県内石材業者のストック材を想定。首里城復興で採取された与那国島産の細粒砂岩（ニービヌフニ）の余りを入手できる場合は、調達先の候補とする。難しい場合は、本島内で確保できる材を用いる。

［年度別工程表］

年度	制作作業内容
2024(令和 6)年	①熟覧調査
	②製作図面作成
	③材料調達
2025(令和 7)年	①試作原型製作
	②材料粗取り加工
2026(令和 8)年	①熟覧調査
	②本製作

［製作仕様］

図面：正面・左右側面・背面・上下面の図面を作成すること。

試作：粘土原型を作成し、造形の試作を行うこと。監修者または製作者の必要に応じて、道具の試作も行うこと。

石材：沖縄県産の細粒砂岩（ニービヌフニ）を想定。入手できなかった場合、国内で入手できる同質（硬さや質感、色味）の石材を用いる。

造り：親獅子と小獅子及び土台をそれぞれ一材で製作すること。

仕上げ：手彫り仕上げとする。仕上げ方は監修者、製作者、事務局で協議の上決定する。

輸送：重量物であるため、美術輸送を想定。

納品：本製作および試作、図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については保管兼展示用の台を製作すること。展示台の形状・材質は製作者・監修者・事務局で協議の上で決定する。

その他：製作工程がわかるように工程見本も製作すること。

［調　査］

2023 年 11 月 28 日　熟覧調査（R5 第 1 回ワーキング）

［類例・参考資料］

玉陵中央塔上獅子

［資料名］玉陵

「鎌倉芳太郎写真」（沖縄県立芸術大学所蔵）

2023 年 11 月撮影

［復元資料名］珊瑚石製石厨子（さんごいしせいいしずし）	
［原資料名］珊瑚石製石厨子	［指定］―
［年代］1728（雍正 6）年	［作者］―
［所蔵館］沖縄県立博物館・美術館	［所蔵番号］5111（仮）

［選定理由］

琉球の石彫刻を代表する種類である厨子甕のうち、珊瑚石製の厨子としては最大級の大きさである。珊瑚石は琉球を代表する石材であるが、現在では採捕、運搬、加工、彫刻の技術が失われている。また、彩色についても不明な点が多い。珊瑚石彫刻の技術解明及び、加飾技術を明らかにすることができると考えられるため復元候補とする。

［保存状態］

良好。

［法量］　※参考文献より引用

蓋高：46.5 ㎝　幅：58.5 ㎝

躯高：50.5 ㎝　幅：60.5 ㎝　奥行：45.5 ㎝

香炉：9.5 ㎝×8 ㎝×12.5 ㎝

香炉台：未計測

［素材・材質］

塊状珊瑚石（コブハマサンゴ等）

弁柄か

［技法］	［付属］
丸彫り	なし

［想定される科学調査］

３Ｄ計測

蛍光Ｘ線分析

分光分析

［主たる材料調達先］

石材：沖縄本島近海の遠浅リーフ内（代替として石材業者のストック材、または廃屋となった古民家の石垣）または土中に埋まっているもの。

表面彩色材料：科学分析の結果をもとに製作者・監修者と相談の上決定する。

［年度別工程表］

年度	制作作業内容
2024(令和6)年	①熟覧調査
	②製作図面作成
	③材料調達
2025(令和7)年	①試作原型製作
	②材料粗取り加工
2026(令和8)年	①熟覧調査
	②本製作

［製作仕様］

図面：正面・左右側面・背面・上下面の図面を作成すること。

試作：３Ｄ模型を作成すること。珊瑚石加工の試作を行うこと。彩色の試作を行うこと。監修者または製作者の必要に応じて、道具の試作も行うこと。

石材：沖縄県産の珊瑚石を想定。

造り：蓋、身、香炉をそれぞれ一材で製作すること。

仕上げ：手彫り仕上げとする。仕上げ方は監修者、製作者、事務局で協議の上決定する。また、科学分析の結果をもとに彩色を行うこと。

納品：本製作および試作、図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については保管兼展示用の台を製作すること。展示台の形状・材質は製作者・監修者・事務局で協議の上で決定する。

その他：製作工程がわかるように工程手板も製作すること。

［調　査］

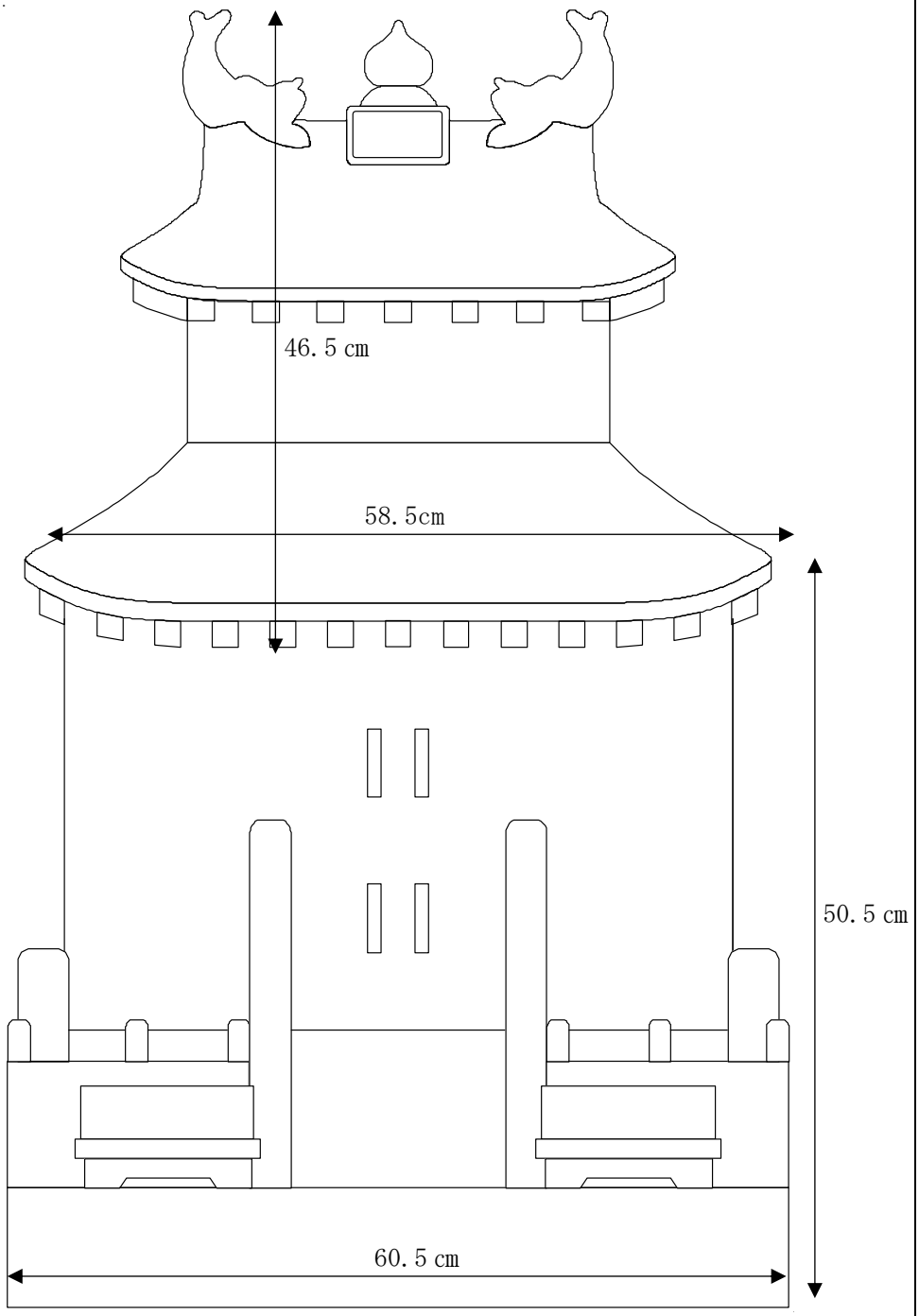
2023年11月28日　熟覧調査（R5第１回ワーキング）

［類例・参考資料］

沖縄県立博物館・美術館所蔵のその他珊瑚石製石獅子

那覇市壺屋博物館所蔵の珊瑚石製石獅子

[資料名]設計図



［資料名］珊瑚石製石厨子

収蔵資料撮影